

# 進学重点

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>大学入試改革に向けての学力向上</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p>(実施体制) 各教科代表者等から構成されるSCP(サイエンスコアプロジェクト)を設置し、進路課と広報・研修課が連携して教科横断的な意見交換と職員研修への提言を行う。</p> <p>(生徒の学力向上) 大学・研究機関見学、大学セミナー等の定期開催、職業レクチャー・大学レクチャー等の実施、ICT機器の利用</p> <p>(教員の指導力向上) 他県高校視察、職員研修と講演会、大学視察・進学情報の収集、ICT機器の利用</p> <p>(高大接続改革) 大学講師等による講座、高大連携事業やコンクール・発表会等への参加</p> <p>(成果の検証) 学校評価委員会開催、生徒自己評価アンケート(その他) 実践的な探究学習、外部研究機関との連携</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組	2年 45.7% 1年 48.9%	48.0% 50.0%	44.6% 43.2% (B)
①平日学習時間	2年 2.1h 1年 2.0h	2.3h 2.2h	2.2h 2.1h (B)
①休日学習時間	2年 3.1h 1年 2.4h	3.3h 2.5h	3.5h 3.1h (B)
③授業で力がついた実感	2年 10.1% 1年 9.9%	13.0% 13.0%	5.9% 18.7% (B)
①難関国公立大学の受験者数	49人	55人	54人(B)
②外部連携による参加生徒数	40人	45人	52人(A)
②大学進学補講への参加生徒数	252人	全員	278人(B)
③難関国公立大学の合格者数	29人	30人	27人(B)
①自主的に勉強している	2年 65% 1年 50%	70.0% 55.0%	77.0% 67.0% (A)
①時間の使い方を意識	2年 65% 1年 65%	70.0% 70.0%	66.0% 68.0% (B)
②授業への理解	2年 83.8% 1年 79.0%	85.0% 80.0%	83.8% 87.1% (B)
③ICT授業による理解	2年 72.0% 1年 55.0%	75.0% 60.0%	66.0% 83.0% (B)

<4 特徴的な取組>  
★ 生徒の学力向上

**2年普通科文系探究コースの新設**

- ・ 課題研究 (通年、1単位)
  - ・ 東京グローバルゲートウェイ研修 (4月)
  - ・ 文系サイエンスダイアログ (6月)
  - ・ 伊豆半島研修 (7月)
  - ・ シンガポール研修 (11月)
  - ・ 課題研究校内合同発表会 (3月)
- ◎探究活動の推進と語学力育成、高い志あるグローバルなリーダーを目指す。



伊豆半島研修 (松崎町)

**大学・研究機関の見学**

- ・ 東大訪問、国立遺伝学研究所研修
- 大学セミナー等の定期的開催**
- ・ 東大・京大・医学科セミナー、難関大セミナー、医療系セミナー
- 異文化交流の研修会などへの参加**
- ・ 海外語学研修 (英国)、トビタテ!留学 JAPAN、エンパワーメントプログラム
- ◎学習意欲の向上と学習チームづくり



海外語学研修 (英国)

## ★ 教員の指導力向上

### 校内研修会（元年度は3回実施予定）

- ・グループワーク「難関大合格に向けて」、ICT研修「タブレットの使い方」SC講話「不登校生徒への対応」（5月）
- ・各教科による「共通テスト対応の校内テストの実施と課題」の分析と共有（10月）
- ・ICT研修「プロジェクタ、タブレットの効果的な活用方法」（12月予定）



### 授業改革研修

- ・3週間の授業公開週間を年2回実施（6月、9月～10月）
- ・民間業者主催の教育研究セミナーなどへの参加（夏季休業、冬季休業）

### 他県先進校視察

- ・探究学習や理数科教育推進校、公立進学実績校などを視察（宮崎大宮、宮崎西他）

### 予備校の授業見学

- ・名物講師の教授法見学と懇談

## ★ 高大接続改革への取組

### 大学職員、研究機関職員等との連携

- ・課題研究における生徒へのアドバイスなどによる取組のレベルアップ（遺伝学研究所、ジオパーク推進協議会）
- ・東京大学学生説明会（10月）、浜松医科大学副学長講演会（医療系セミナー、11月）

### 高大連携事業等への生徒の参加

- ・科学研究費助成事業、GSC（静岡大学、名古屋大学、東京農工大学、筑波大学他）



## <5 成果と今後の方向性>

### 【成果】

- ・普通科文系2年生に探究コースを新設した。生徒は課題研究をはじめ、海外を含めた自主的な研修など各自が探究活動に意欲的に取り組んでいる。また、難関大受験の機運も高まっている。
- ・職員研修では「難関大合格に向けた取組」、「共通テスト対応のための校内テストの実施と課題整理」などを協議した。今後の授業改革の方向性などが共有されたことで、難関国公立大学合格者数増加に向けた職員の意識がより高まった。
- ・1年次の職業レクチャー、インターンシップ、東大訪問、2年次の大学オープンスクール参加、大学レクチャーなどを実施した。これらの事業は、事前・事後研修も含め生徒の学力向上及び大学入学後も学び続ける意欲を高めるキャリア意識の向上に資している。
- ・他県の高校の探究学習を含めた教科指導や進路指導の先進的な取組を視察し、職員で共有することで授業改善や学校改革につながっている。

### 【今後の方向性】

- ・理数科及び探究コースで実施している課題研究などの探究活動の取組や成果を、学校全体で共有し、発展させていくようにすること。
- ・コアスクール事業推進に必要なベテラン教員等の優れた授業力、進路指導力、生徒指導力などのノウハウが職員研修や各教科内や進路指導の場面で共有され、引き継がれていくようにすること。

# 静岡県立沼津東高等学校

【教育目標】 21世紀を担う高い志とロマンを持ったグローバルリーダーの育成

## 研究テーマ

### 「高い志とロマン、グローバルリーダーの育成、主体的で創造的な生徒の育成」

- ・ 学びの質の転換と授業改善、体験や探究により探究活動を楽しむ活動
- ・ 科学の本質への探究、先端科学技術への主体的な関心と学習意欲の向上
- ・ 教員の指導力の向上
- ・ 高大接続改革の情報収集と研究

## 研究の必要性・・・現状・課題分析から

- グローカルリーダーに求められる、論理的思考力・表現力、学ぶ意欲等の幅広い学力の育成と定着
- 実験・観察等を通じて、科学的思考サイクルを体得・実感させる指導やICTの効果的・発展的な活用
- 最先端の科学技術に触れる機会やフォーラムへの主体的な参加、身近な自然資源への理解の促進など、体験を通じた科学へのより高い関心・意欲を育む
- 高いところさしの維持・向上とともに、高大接続を意識して進路実現を確かなものにする教員研修の充実

## 数値目標

### 【平成30年度 実績と現状分析】

- ① 大学合格者数（現役）  
国公立大学：140人（難関大受験者101名）  
難関国公立大学(医学部)：37人(3人)
  - ② 科学技術への理解、興味・関心、意欲・態度への自己評価：4.5点（5点満点）
  - ③ 各種科学賞や科学の甲子園などコンテストへの上位入賞者数：2件
- ※ 「科学の甲子園」2年連続全国大会出場

### 【令和元年度 学校独自の具体的達成目標】

- ① 難関大学受験者数の維持：100人  
難関大学合格者数維持：50人  
幅広い学習の維持：  
センター試験5-7、6-7科目構成率95%以上
- ② 大学・研究機関との連携：3大学3研究機関
- ③ 教員外部研修参加者数：35以上  
計画的校内研修の実施と研究  
主テーマ：「生徒の授業中の活動をどう評価するか」

## 沼東NEXT10研究委員会

## 校内コアスクール推進・検証機関としての役割

### 学校行事を通じた豊かな感性・人間性 自治の精神の涵養

- ・ 高大接続改革対応等
- ・ カリキュラムマネジメント研究により新教育課程の編成
- ・ 多面的評価に向けた学習評価の研究等（ルーブリック評価・観点別評価）



ワーキングチーム中心の企画立案と検証、フィードバック（PDCAサイクル）

- ・ 量から質への学びの改善  
主体的学び・対話的学び・深い学びの視点（総合的な学習の時間「揺籃」の取組）
- ・ 学習評価の研究（計画的教員研修）  
思考力・判断力・スキルのパフォーマンス評価
- ・ 大学訪問、先進校視察研修、ICT活用等  
チーム沼東としての組織的相乗効果

## 成果の検証と事業の改善計画

- 3年間の定点観測、比較による検証
- 次年度に向けた改善項目の検討と提案
- 効果的なICT活用の研修の主導と研究
- 普通科生徒への機会提供の研究

数値目標の見直し  
新規事業  
職員研修と活用  
行事予定の見直し

## 職員研修：グループワーク



本年度実施または計画の特徴的な取組：～体験的探究プログラム～

キャリアアッププログラム

大学・研究機関の専門家による研究内容の探究や意欲を触発する本物の講演会等

- 「秋季講演会」「職業を知るセミナー」
- 「大学出張講義」「沼津未来塾」(新)
- 「大学訪問」(講義体験)



職業セミナー

グローバル体験プログラム

他国言語・文化への理解と国際的な諸問題に関する関心を持ち、多面的な視点で見る態度を育成

- 「Building Bridges研修」(アメリカ4泊6日)
- 「エンパワーメント・プログラム」(国内5日間)
- 「ディベート体験」「模擬国連」(総合的な探究)



探究活動：模擬国連

地域交流・科学プログラム

研究機関等と連携した地元の自然科学資産(伊豆半島等)の实地踏査による理解促進と地域貢献

- 「伊豆半島ジオパーク・フィールドワーク」
- 「中学生科学体験教室」
- 「AOIパーク連携事業」(予定)



ジオパーク・フィールドワーク

アカデミックチャレンジプログラム

理系生徒・自然科学系部活動への「各種科学賞」への主体的なチャレンジを支援

- 「自然科学系部活動等支援」
- 「化学オリンピック」等参加
- 「科学の甲子園」(2年連続全国大会出場)



科学の甲子園全国大会

科学の本質探究プログラム

科学の本質を体験し、探究し発信する課題研究の実施と専門家による助言

- 「課題研究」
- 「東京大学・国立遺伝学研究所訪問」
- 「民間研究機関訪問」(予定)



国立遺伝学研究所研修

最先端科学体験プログラム

最先端の研究室を訪問し体験するとともに、本物の講演を聴き意欲を喚起

- 「科学講演会(3回)」「医学科講演会」
- 「サイエンスダイアログ」(日本学術振興会)
- 「電子顕微鏡実習」「医学インターンシップ」等



電子顕微鏡実習

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>「如之何（これをいかにせん）」プロジェクト —主体的な学習者の育成を目指して—</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コアスクール委員会の設置</li> <li>・ 土曜講座、補講の実施（全学年）</li> <li>・ 出張講義（2年）の実施</li> <li>・ 総合探究、企業訪問、職業体験（1年）</li> <li>・ 科学の甲子園等への参加補助</li> <li>・ 大学における研究体験（東大訪問 1年）</li> <li>・ Classiの活用（1・2年）</li> <li>・ 先進校への学校訪問</li> <li>・ 教育研究者による意識調査及び提言（教員） 東京大学大学院教育学研究科 学校開発政策コース 福島 真治氏 （現在 国立教育政策研究所 勤務）</li> <li>・ ジャーナリストによる講演 時事通信出版局 坂本 建一郎氏(H30) テレビ静岡 橋本 真理子氏(R1)</li> <li>・ 予備校等のセミナーへの参加</li> </ul>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	H30 実績
①授業への取組 2年 1年	29.6 37.4	35.0 40.0	31.9 (B) 40.3 (A)
①平日学習時間 2年 1年	2.4 2.6	2.8 2.8	2.3 (C) 2.7 (B)
①休日学習時間 2年 1年	3.8 4.0	4.0 4.0	3.5 (C) 3.3 (C)
③授業で力が ついた実感 2年 1年	10.1 10.9	15.0 15.0	11.8 (B) 9.9 (C)
①難関国公立大学 の受験者数	63人	65人	61人 (B)
②外部との連携に よる探究活動等 への参加生徒数	50人	80人	86人 (A)
②大学進学を目的 とした補習等へ の参加生徒数	964人 98.3%	960人	963人 (A)
③難関国公立大学 の合格者数	28人	40人	30人 (B)
①センター試験の 5-7型形成率	93.5%	95%	91.8% (B)
②科学の甲子園等 への参加生徒数	50人	60人	76人 (A)
③進路指導に関す る積極的満足度	生徒42% 保護者24%	45% 30%	41% (B) 26% (B)

<4 特徴的な取組>



◎東京大学訪問 令和元年8月5日

1年生希望者と理数科の生徒合計77人で東京大学訪問に行ってきました。

午前は本校OBの案内で、博物館の見学と学内の散策をしました。午後は本校OGで工学部教授高井まどか先生の講義を聴講しました。そのあと、OB・OGとのフリートークを行いました。

講義はまだ習っていない内容も含まれていましたが、関係する医療機器に実際に触れ、医療にも工業技術が深く関わることに興味を持ったようです。また、大学の研究室を見るのはほとんどの生徒が初めてで、充実した施設で専門的な研究ができることに改めて興味を持ったようでした。

フリートークでは、生徒から様々な質問が出ました。学生達はそれぞれユーモアを交えながら、大学生活の苦労や楽しさ、研究に対する情熱、高校時代の勉強方法などを答えてくれました。

#### <4 特徴的な取組>

##### ◎1年生フィールドワーク 令和元年10月23日実施

1年生の探究学習「心見考」で生徒たちは、企業の社会的使命や存在意義をグループで考えてきました。今回は実際に企業を訪問し、業務を見学して企業の方に質問することで、探究的な活動を更に深めました。

訪問した企業等は、日立、キャノンIT、フジテレビ、外務省、丸紅、毎日新聞社、東京証券取引所など多岐にわたりました。

フィールドワーク以外にも、1日体験ナース、ころごし育成セミナー等の職業体験プログラムに多くの生徒が参加しています。



##### ◎ジャーナリストによる講演 令和元年10月2日 実施

講師：テレビ静岡報道制作局部長 橋本真理子氏

演題：「気づけば映画監督

～人生！台本通りにいかないからおもしろい～」

最初にTV番組制作現場の例を挙げながら「ひとのよいところを見つけて伸ばすのがプロデューサーの仕事」というお話をしてくれました。それから、ドキュメンタリー映画に登場した全盲のイーちゃん、音楽担当の川口カズヒロ氏をゲストとしてトークを展開し、「不平不満を言う前に動け」「後悔するなら挑戦せよ」「待っているのは出遅れる」「時代に乗り遅れるな」「自分の弱み、強みを見極めよ」など、生徒たちの今後の人生の指針となるような言葉をいただきました。

最後は、川口カズヒロ氏の歌が披露され、素敵な歌声に包まれてしめくられました。



#### <5 成果と今後の方向性>

キャリア意識と主体的な学習態度の養成に重点をおいた事業である。

1年生の探究学習は、外部のプログラムを導入し、大手企業のインターンとして課題に取り組んでいる。1年を見通した綿密な計画のもと、企業の社会的使命や存在意義などをグループで考え、新しい価値を見つける等の探究的・体験的な活動が行われ、教員がそれを支援する形で、教員負担の軽減も実現している。また、別途フィールドワークとして企業訪問も計画し、更なるキャリア意識の育成を図り、活動歴をClassiに記録させている。2年生に対しては、希望を取って文理別・職種別の出張講義を実施している。進路決定の支援をねらいとし、活動歴をClassiに記録させている。喫緊の課題は、基礎学力確保のため自発的な家庭学習を定着させることである。

教員に対しては、予備校セミナーへの参加等を予定通り実施している。また、昨年度、教員に実施した東京大学の研究者による教育改革への対応と授業改善等への意識調査を分析し、結果及び学校改善に係る提言を8月30日の職員研修において示していただき、今後の参考とした。

## コアスクール(進学重点)指定校

### 本年度の取組 (中間報告)

#### 【事業目標】

- ① SSH の成果の普通科への波及・拡充
- ② より上位を目指す進路意識の醸成
- ③ 第一希望の実現

#### 【成果指標 (共通)】

成果指標		1年	2年
授業への取組		29.0%	32.3%
学習時間	平日	1.8h	1.8h
	休日	2.9h	2.9h
授業で力がついた実感		9.7%	7.2%

(令和元年度学習状況等アンケートから)

#### 【本年度事業の進捗状況】

#### 生徒の学力向上 (様々な体験を通し適性・可能性の発見)

##### 大学・研究機関訪問 <8月>

- 東京大(8/1・2)、名古屋大(8/7)を訪問。東大訪問は1泊2日で実施した。大学職員による概要説明、本校卒業生の協力を得ながら施設・研究室見学や卒業生との懇談を実施した。



##### キャリア教育の推進 <10月>

- プロフェッショナルと語る会 <10/4 実施>  
職業に関して実際に活躍する実業家や専門家 11 人による講義を通し、職業を知ることによって生徒の目指す将来像を具体化するため実施した。(1年生) 「参考になった」: 90%
- 高大連携講座 <10/16 実施>  
大学教授等の専門的な講義を通して、進路意欲と主体的に学ぶ意識を高めるため実施。静岡大学、静岡県立大学から講師 8 人を招聘した。(2年生) 「意識が高まった」: 73%



プロフェッショナルと語る会

高大連携講座

##### 医療系講座・講演 <通年>

- 医・薬・看護・医療(理学療法・作業療法等)への進学に対応した特別講座により、確固な意識と難度の高い入試への確に対応する。医療人としての適性から受験・面接までに関して2・3年で継続実施している。(通算全6回)

##### 体験研修の推奨・グローバルリーダーの育成

- 県教委主催事業への参加 <7~8月実施>  
高い志を持って、自らの可能性を高めるため夏休み期間を利用した自主的研修を推奨  
「海外体験促進事業」: 2人  
「モンゴル国との高校生相互交流事業」: 1人  
「次世代リーダー養成塾」: 1人

- 『エンパワメントプログラム』  
<8/19~23 実施>  
海外大学の大学院生と少人数グループでディスカッションする国内5日間。  
静岡高校・静岡市立高校と合同で実施し、参加者からは高評価を得た。  
(1.2年 36人参加)



## 教員の指導力向上（生徒の進路実現への確実な支援）

### 授業の質の改善 <通年>

#### ●ICTの効果的活用

全ての普通教室に整備された ICT 機器（プロジェクター、Wi-Fi 環境）を活用して、生徒の興味・関心を喚起し、より効果的な授業を目指し取り組んでいる。

#### ●「主体的・対話的で深い学び」の推進

授業に对话を通じた理解と自ら考える機会を意識的に設定している。

「交流授業(相互授業参観)」期間を設け、全教員が公開授業を実施する。参観者からの指導・助言の促進を図っている。

校内研修会で授業力向上研修等の伝達・演習を実施。AL 型研究授業・研究協議への参加を促進している。

#### ●授業評価アンケートの実施

全教員が授業集団を対象に授業改善に向けたアンケートを毎学期実施する。第 1 回(6 月)結果を職員会議で報告し、授業への還元を進める。

教員の説明が分かりやすい	82%
映像機器による資料提示は分かりやすい	78%
授業進度はちょうどよい	57%
授業レベルはちょうどよい	54%

### 難関大学受験への対応力 <通年>

- 校外模試分析会、大学個別入試分析会への参加、各教科での夏季休業中の予備校講習への参加を通じて、難関大学受験に向けた教科・進路指導の充実と生徒への還元を図っている。

### 進学情報の収集、先進校への訪問 <通年>

- 新大学入試に関わる文科省や審議会の情報・資料を迅速に収集する。

「清高 2020 委員会」を中核として、教員間で共有すべき情報の確認と対応策を検討。

必要に応じて、生徒・保護者への確かな情報提供を実施している。

- 総合的な探究の実践、授業改善・学習評価の研究を進める県内外高校への訪問を計画している。

「主体的・対話的で深い学び」、「学習評価」、「総合的な探究」等について

訪問後、本校導入に向けた研究を進める予定。

## 高大接続改革（新しい大学入試制度への対応）

### コンクール・発表会等への参加の促進 <通年>

- 部活動や個人で自主的参加を推奨。学力 3 要素の主体性評価に直結するものとして校内全体で推進している。



自然科学部化学班

部活動や希望者による科学オリンピックや科学の甲子園へのエントリー、学生科学賞・山崎賞・鈴木賞などへの応募、静岡大学 FSS・GSC 等大学との連携事業への参加など

### 学習評価の導入に向けた対応 <通年>

- 「学習評価」に伴い、パフォーマンス評価、観点別評価の理解促進と導入に向けた研究を実施している。



静岡大学 村山教授から指導

校内研修会 8/30 に村山静岡大学大学院教授からの学習評価に関する指導のほか、定期訪問全体研修会で総合教育センターからの講義の受講・演習を実施

## 成果(中間)と今後の方向性

- 当初計画に沿って実施しており、事後アンケート結果は良好
- 高大接続改革への「清高 2020 委員会」を中心とした実質的な取組の継続
- 1, 2 年次における難関大学志望者数減少（前年比較：6～7ポイント）への対応
- 平日・休日の学習時間減、授業理解度減への対策の検討と実施

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p><b>叩高（高きを叩ぐ）の精神の涵養</b> ～校内外の学習活動を通して主体性を引き出す～</p> <p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p>(1) 実施体制 委員会が企画立案し、担当者が役割分担する組織的運営を行う。</p> <p>(2) 生徒の学力向上 知的好奇心の高い生徒に適した体験活動を計画し、希望者が取り組むことで進路意識を明確にして研究に向ける志や学習意欲を高める。</p> <p>(3) 教員の指導力向上 難易度の高い学習指導が確実に行われるよう研究と研修を計画し、実践する。リーダー育成をテーマに人間性を高める研究を進める。</p> <p>(4) 高大接続改革 授業や体験活動の中で、言語能力や英語活用力を伸ばし、国内外で活躍できる力を育成する。</p>
--

<3 成果指標と実績>			
成果指標		初期値	目標値
① 授業への取組	2年	27%	30%
	1年	38%	40%
① 平日学習時間 (塾講義時間を除く)	2年	2.14	2.20
	1年	2.06	2.20
① 休日学習時間 (塾講義時間を除く)	2年	3.23	3.30
	1年	3.13	3.20
② 授業で力がついた 実感	2年	12%	15%
	1年	13%	15%
① 難関国公立大学の受験者数		168人	170人
② 外部連携による探究活動等への参加生徒数		149人	160人
② 大学進学を目的とした補習等への参加生徒数		866人	870人
③ 難関国公立大学の合格者数		62人	75人
① 難関国公立大学の志願者数		157人	170人
② キャリア意識の高まりと進路目標の設定		767人	770人

<4 特徴的な取組>

生徒の学力向上（体験活動）

エンパワーメントプログラム

外国人大学生とプロジェクトに取り組み、英語の討論やプレゼンテーションを行った。夏休み中の、英語漬けの5日間で英語活用力が向上した。生徒からは、外国人と話す自信がついたと好評だった。2年連続実施し、本校生徒52人が参加した。

今年度は、静岡市立高校、清水東高校と合同開催した。



医学講座

現役の医師から医療現場の実態や医療に向ける心構え、職務の使命等を学んだ。「地域格差と高齢者医療」というテーマで自治医大出身の卒業生である女性医師から一般の講座では聞くことのできない貴重な話を聞いた。学力のほかに倫理観や体力、気力まで充実している必要性を知った。



キャリア形成支援プログラム

8/6(火)1, 2年生19人

NPOによる事前学習の後、市内6か所の企業等を訪問し、職業人にインタビューした。事後学習では、生徒ごとプレゼンテーションで発表した。

訪問先：法律事務所、市役所、静岡鉄道、NPOフードバンク等



国際関係講座 希望者対象

第1回 外務省職員 第2回 大学教授

国際情勢や外交問題への関心・理解を深めた。海外から見た日本、国際社会における日本の役割等を考えるきっかけとなった。世界で活躍する方から直接話を聞き、自分のキャリアを考える機会となった。



<p><b>東海高校即興型ディベート交流大会</b> 6/15(土)岐阜高校にて、岡崎、四日市、岐阜高校と4校で交流。論題を肯定側、否定側に分かれて即興英語で議論。英語能力の向上を図った。</p>		<p><b>東大キャンパスツアー</b> 6/4(火)～5(水)1, 2年生68人が参加。教育や研究を直接見聞きし、進学意欲を高めた。東大生からグループごと説明を受け、相談会で交流した。地震研究所も訪問した。</p>	
<p><b>法学講座</b> 法曹界に関心のある生徒を対象に、卒業生の女性現役弁護士から法曹界の内容や課題、司法試験対策や大学生活、弁護士としての苦労や家庭との両立について講義を聞いた。11月に実施した。</p>	<p><b>大学科学講座</b> 名大GSC 7人参加。名古屋大学へ数回通って研究した。うち1人が第3ステージを通過し、ドイツ研修へ。昨年度は2人がドイツで研修した。静大FSSにも数名参加した。</p>		
<p><b>留学等体験活動参加支援</b> グローバル人材育成事業：豪州、ガーナ 計2人 海外体験促進事業：米国2人 モンゴル教育研修：1人 次世代リーダー研修：1人</p>		<p><b>大学出張講義</b> 2年生対象12月。 文系：京大研究生 理系：大阪大教授</p>	
<p><b>東大生出張セミナー</b> 1, 2年生3月。前半：パネルディスカッション、後半：グループで東大生を囲み相談会。進路意識の向上。</p>			<p><b>進路講演会</b> 10/25(金)1, 2年生全員、12人の職業人が講師。</p> <p><b>東大金曜特別講座</b> 年14回。東大教養学部による公開講座中継。東大講師や他高校生とスカイプで相互交信。</p>

**教員の指導力向上（研修・視察）**

<p><b>教員研修「世界標準のリーダーシップ教育」</b> 8/28(水)講師：コンサルタント会社代表取締役 誰でもリーダーシップは身につけられる。そうした組織が成長を遂げる。リーダーシップ教育の在り方を学んだ。</p>	<p>リーダーシップ研修</p> 	<p><b>教員研修(外部)</b> 「進学校における主体的・対話的で深い学び」：昨年度本校で行った研修を他校で実施した研修に8人が参加した。 「未来のマナビフェス」：上記同講師による東京での研修会に参加した。 「新学習指導要領、高大接続改革研修」：東京、埼玉での研修会。3人が参加した。</p>
<p><b>県外学校視察</b> 全国有数の進学校や特色ある教育を行う10校を10人が訪問し、進学指導に役立てる。3年間に30人の教員が訪問して資質を向上させる。</p>	<p><b>難関大学入試指導方法の研修(外部)</b> 夏季21人、冬季未定。可能な限り多くの教員が予備校等の研修に参加して授業力、進学指導力を伸ばし、生徒の学力を引き上げる。</p>	

**< 5 成果と今後の方向性 >**

高い学力と進学意欲を持つ生徒に対し、どんな教育と仕掛けができるのか。昨年度は「深い学び」、今年度は、社会のリーダーを育てる学校として「リーダーシップ教育」をテーマに教員研修を行った。授業は、詰込み型から思考力や表現力を伸ばす形態への移行が進められている。

コアスクール事業として、生徒には多様な体験活動の機会を与えている。積極的に取り組んだ生徒の報告から変容、成長している姿を見ることができる。高い目標に向かう(印高)意識を醸成し、主体的に学ぶ意識を育む取組を提供していく。生徒は興味ある活動に自ら選択して取り組み、目標達成のため努力することで、学力向上とともに人間性が育成されることが期待される。